



若竹だよい

【巻頭言】

総合環境療法

—自然に勝る療法はなし—

園長 野田大燈

夏休みに入って、帰省が出来る園生たちのワクワク顔と、家庭の事情で帰省が出来ない園生の顔が対照的で、職員も対応に苦慮しています。

園長としては「お家にも帰りたいが学園で過ごすのも楽しいし心が落ち着く」と言う環境を早く実現したいのです。

仏教ではこの世の中の事を「娑婆世界」と言っていて自分の思い通りにならないのが世の常、と言っています。

社会の中で躓く事・悲しいこと・悔しいことが起きて当然です。

その為にも園生にとっては「第二の家庭」として、退園して社会人となっても心傷つき居場所が欲しい時、数日が過ごせて充電できる空間を用意できないものか、と考えています。

幸いにも私たちの念願でした若竹学園の増改築工事の許可が県庁の担当課からもたらされました。

諸事情により開園以来、園生達は狭い空間の中での生活を余儀なくされていましたが、一人一部屋が保障されます。

ゆったりした空間は園生のこころもゆったりとしてくれると思っています。

同時に退園者が数日ゆっくり出来る部屋が確保できないものか、と密かに増改築図面を見つめながら思案しています。

研修会に参加してきました。「総合環境療法とは何か？」がメインテーマの研修でした。

もう既にご承知のこととは存じますが、児童施

設にも幾種類かの施設があります。

皆さまがよくご承知の「児童養護施設」「乳児院」もそうですが若竹学園は「情緒障害児短期治療施設」（略称「情短」）です。

来年からはその名称も施設の内容をより判り易くするために「児童心理治療施設」と変更されます。

他の施設の多くは保育士・児童指導員が中心で子ども達の支援を行っていますが、情短は精神科医が中心となって構築されたものですので、医療体系が母体となって精神科医・看護師・臨床心理士・児童指導員・保育士・小中学校の教員・栄養士・事務員、と専門職集団の高機能施設が情短なのです。

現在は全国に 50 施設ありますが平成 6 年開園時では全国で 15 番目の施設でした。

若竹学園の「総合環境療法」に対する考えは、海拔 400 ㍎の瀬戸内海国立公園内にある学園を取り巻く大自然を最大限に活用した環境療法です。

春は野に実る野イチゴやイタドリを採って食し、夏は知人のプライベートビーチで海水浴や魚釣り（何とこの海岸でタコが釣れるのです）秋は栗拾いに余念がありません。

冬の積雪は少なくなったものの、園生たちは斜面を利用してソリ遊びや雪合戦に夢中となります。

精神科医による薬物療法やカウンセリングと並行して、本能的に園生達は所狭しとクヌギ林や斜面を駆け巡って肉体と精神のバランスを図っているように思えます。

私達職員は園生と自然の仲立ちを如何に行うか、が問われていると思います。目立たぬように、出過ぎないように。

—了—

キャンプ

8 月 1, 2 日でキャンプを行いました。

1 日目、朝から学園を出発し、海水浴場に行きました。防波堤付近まで泳いで行ったり、砂浜でビーチフラッグをしたり、釣竿を持って行って釣りをしたりと、それぞれやりたかった活動を楽しみました。



海水浴を終えると、スーパーに寄って食材の買い出しです。班ごとに夕食のバーベキュー用の食材と、翌日朝食用の食材を買いました。「何をたべようか？」と相談しており、決められた金額の中でおいしいものを作ろう！！という意気込みが感じられました。

キャンプ場に到着してテントを立てたら、バーベキューの準備開始です。なかなか大変な火起こしも、協力しながら頑張りました。ただ肉を焼くだけではなく、鉄板を使って焼きうどんを調理し



ているところもありました。最後にはたくさん食べて満足そうな笑顔が広がっていました。

夜はキャンプファイヤーを囲んだレクリエーションタイムです。『おちたおちた・じゃんけん列車・にんじんかぼちゃだいこん』などをしました。最初は恥ずかしがっていた子ども達も、ゲームが進むにつれて、歓声を上げて楽しんでいました。

テントに入って「おやすみなさい！」をした後、しばらくしてから雨が降ってきてしまいました。

止むのを待とうかとも思ったのですが、バケツをひっくり返したような大雨に変わり、テントの中に浸水してしまうアクシデントに見舞われ、雨が止んでも、テントで寝る事はできませんでした。男女別々に広間に集まって寝る事になりましたが、学園でも園生みんなと職員で寝る機会はなかなかない為、貴重な経験になりました。

2 日目は、頑張って朝ごはんを作って食べた後ハマチの体験学習館マーレリッコとツインパルながおに行きました。

マーレリッコでは、ハマチ養殖の歴史を知り、実際にハマチを目の前でさばくところを見学した後、エサやり体験をしました。ハマチを目の前でさばいて下さ



り、子ども達は興味深そうに見ていました。餌やり体験では、初めての体験である子も多く、楽しそうに餌をあげていました。昼食は実際にさばいて下さったハマチを使った刺身定食となっており、学園生活では味わえない新鮮なハマチを美味しく頂きました。



午後からは、ツインパルながおに行きました。ここは、大きな流れるプールと温泉施設が合わさっており、両方楽しめる場所です。流

れるプール、クライミングウォールプール、温水プールなど、色々な種類のプールに目を輝かせ、どこからいこうか、次にどれに行こうかと嬉しそうにしており、元気いっぱい楽しんでいました。そのままツインパルながおの温泉施設でお風呂を済ませ、学園に帰ってきました。

日射しが強く、暑い 2 日間でしたが、みんなで楽しく過ごす事が出来ました。

サーカス鑑賞!

8 月 1 1 日、岡山放送株式会社・ドリームサーカス株式会社様よりご招待いただき、ハッピードリームサーカスを見に行ってきました。

バイクでグルグル回ったり、火を噴く人、大道芸、息ピッタリの空中ブランコを見ることが出来ました。小学生くらいの男の子も空中ブランコをしていて、自分達と年齢の近い男の子の勇姿に、非常に驚いていました。あまり見ることが出来ない非日常感を体験することができ、驚いたり笑ったりし、終わった後は満足そうな表情でした。

ご招待いただき、ありがとうございました。

子どもの感想

中学3年生 男子

すごかった。とても普通の人間に出来る事じゃないと思った。

ドイツの方々と交流会

8 月 2 0 日、ドイツから来られた方々との交流会を行いました。初対面な上に言語はどうしたら、と緊張する場面はありましたが、時間を掛けて一緒にお菓子を食べている間に緊張が解けていき、笑い合って話していました。

中学3年生 女子の感想

初めて外国人と話して、緊張したけれど楽しく話せた。お菓子をもらったりして、またこんな機会があればいいと思う。

中学2年生男子の感想

外国人と交流することは楽しかった。おかしをもらったり、アニメやサッカーとかの話がたくさんできてよかった。

紫雲ライオンズクラブ主催 バーベキュー

8 月 2 1 日、紫雲ライオンズクラブの方々が、バーベキューを開催して下さいました。

シカ肉やイノシシ肉という、普段なかなか食べられない様な食材に、焼きそばやおにぎり、ギョウザ等、たくさんの食材を用意して下さいました。シカ肉やイノシシ肉は「意外とおいしい!」と話しており、焼きあがると同時に子どもたちがお皿を持って鉄板に集まっていました。食べ終わる頃には、「もうお腹いっぱいや!」と満足そうな声が聞かれました。



また、バーベキューの他にドローンも持参して下さいされており、操縦士の方と一緒に操縦させて頂きました。思っていたよりも難しかったようですが、それぞれが頑張って操縦していました。



その後、太鼓の演奏を見せて頂き、大きな音やパフォーマンスに驚き、感動している様子でした。

紫雲ライオンズクラブ様、ありがとうございました。

ペットボトル ロケット作り

8 月 12 日、亀山学園で行われたペットボトルロケット作りに参加してきました。講師の方が来てくださっており、炭酸飲料の入っていた丸いペットボトル 2 本とペットボトルロケット作成キットを使っての作り方を教えてくださいました。

子どもたちは思いのほか高く長く飛ぶペットボトルロケットの出来上がりにとっても喜んでいました。グラウンド端から端まで飛んだり、ネットを超えてロケットを飛ばしている様子を見て、空気と水で飛ぶ事に驚いていました。

ウォーターサバイバル

夏休みの暇な午後、ウォーターサバイバルを行いました。2 つのチームに分かれて水鉄砲とポイ(金魚すくいの道具のようなもの)を持ち、相手チームのポイと陣地にある大きな的を水鉄砲で打ち抜けば勝利というゲームです(ルールは学園風にアレンジしてます)。水鉄砲をつかった的を狙う

ので、ギリギリで避けたり、相手の裏をかいて見事命中させたりと、スーパープレイがたくさん出ていました。終わる頃には、全身ずぶ

ぬれになりましたが、やりきった!という子や、的を当ててやったぞ!!というように、嬉しそうにしており、とても楽しかったようです。



~御寄附ありがとうございました~

久保田 麵業 様
たまや 様

うどん 沢山
食品、雑貨一式

8 月行事

- 1・2 日 キャンプ
- 11 日 ハッピーサーカス招待
- 12 日 ペットボトルロケット作り
- 20 日 ドイツの方々との交流会
- 21 日 紫雲ライオンズクラブ

在籍人数 平成 28 年 8 月 25 日現在

区 分		県内 (人)	県外 (人)	合計 (人)
男 子	小学生	2	2	4
	中学生	5	6	11
	その他	0	0	0
	計	7	8	15
女 子	小学生	1	0	1
	中学生	5	1	6
	その他	0	0	0
	計	6	1	7
合計		13	10	23

編集後記

夏の猛暑にも負けない子どもたちの生活がよくなるように、これからも子どもたちの為に頑張りたいです。
児童指導員 酒井 芳武

第 271 発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192

T E L 087-882-1000 F A X 087-882-1160

ホームページ <http://4on.or.jp/>

E メール wakatake@mail.netwave.or.jp

編集兼発行者 若竹学園 編集委員

発行責任者 野田 大燈